

アンドレ・モーロワ著「青年と人生を語ろう」二見書房 1968年2月28日刊を読む

## 目的を持ち自己形成を

1. (1)もしあなたがひとかどの仕事を手がけたいと思われたら、それが文学上のものであろうと、科学上のもの、政治上のもの、実業の面のものであろうと、あなたは全身全霊を捧げ、寸暇を惜しんで打ちこむようにしなさい。《芸術は長く、人生は短い。》プルーストが散漫な気分の男だったら、はたして『失われた時を求めて』が書きあげられたでしょうか。バルザックが現実世界に首をつっこんでいたら、あの世界がはたして創造されていたでしょうか。  
  
(2)パスツール、フレミング、アインシュタインらも、かれらの注意力が、レーザー(誘導放射による発光増幅現象。)のように、一点に集中されなかったら、未知の法則を発見していたことでしょうか。あなたの努力をどこに適用するか、焦点を慎重にきめなさい。それがいったんきまれば、<sup>たゆ</sup>倦まず弛まず情熱の炎を燃やしつづけ、きりをもむように突きすすみなさい。  
この焦点をしぼるという作業のおかげで、他のものたちがそのひとたちにふさわしくない、とおもわれるような目的にもおのずから注意がむけられるでしょう。あなたはあなたの決意の背後にすっかりかくれているだけで十分です。フェアブルや、フレミングの友人たちは、その生涯を昆虫やバクテリアにかけるふたりをみて、奇怪千万とおもったにちがいありません。  
  
(3)ヴァレリーの友人たちには、かれが青年時代、晦渋な詩を推敲するのになん年もかけていた心情を理解できませんでした。詩と発見は不滅であり、そのうみの親もその所産とともに不滅なのです。  
  
(4)ところで、話し相手があなたなのに、わたしは自分の大人物趣味に墮して先走りしすぎました。あなたの運命はおそらく、あなたを天才たちの仲間に加えるチャンスをあたえてくれないでしょう。そんなことは問題外です。目的がなんであろうとルールはおなじです。《獅子は兎を撃つにも全力をつくす》ということを学ばなければなりません。商業、工業の面で指導管理をするにも卓越した手法があります。ここでも、集中された注意力、厳密さ、慎重と大胆のほどよく配合された混合性、などが必要とされます。  
  
(5)わたしは昨日、小児麻痺に冒かされた若い本屋さんの働いている姿をみかけました。このひとは、書籍の選択眼の点でも、お客の相談役という点でも、またある著者たちばかりか読者に対しての愛情の点でも、立派でした。かれのピラミッドは、ささやかなものではありましたが、すばらしい躍動ぶりで大空へむかって、丁寧に仕上げられたなにもものかをうち立てていました。

(6) おわかりになりましたか。目的は《成功する》ことではなくて、純粹な意味で光りを放つことなのです。さらにあなたには、こういうことがゆるされるか——あるいは状況次第で受け入れられないかもしれないのです。目的はあなたがこれからお選びになる職業を、あなたの可能なかぎりの力でなしとげることです。

(7) わたしは田舎の家に果樹園をもっています。そこを管理しているひとは栄光にあこがれたりしていません。かれの役割はリンゴを、それもたくさんの、立派なリンゴを生産することです。かれはそうするための理論的研究と実践的経験をみっちりとつみました。かれは終日働き、夜になると専門雑誌を読んで、日進月歩の他人の仕事の経過を学びとり、使用人を有効に使いこなし、その一方ではかれらと親密な関係を維持しているのです。

(8) かれは関連する科学への知識にも意欲をもやしています。たとえば、蜂による花の受粉について、天気予報について、昆虫の役割について、かれはくわしく知っています。かれこそ最良の果樹園管理者であることは容易に想像しうるでしょう。かれにこれ以上のものを求めようなどと思うひとは、ひとりとしていないでしょう。最小のことをなさい。だがそれを完璧に、堂々としたやり方でなさい。あなたはあなたの専門分野で、大人物となることでしょう。

(9) そうにきまっています。それというのも、完全ということはめったにないことです。わたしはなんにんかの職人を知っていました。かれらはまったく世に埋もれて、丹念に仕事をするよりほかになんの野心もなく働いていましたが、長い苦しみののち、ようやく認められ、敬服され、補助を受けられるようになりました。

(10) わたしは三人の若い娘のことを思いうかべます。かの女たちは孤立無援の状態、お金もなく、ツーレーヌの農家で、かの女たちの羊の毛で古風な、それでいて象徴的なデザインのつづれ織を手染めで織ろうと計画しました。かの女たちの生活は困難をきわめました。自分たちの天職の誠実にうちこんでいました。ある日、ある協会、正確には〈天職〉という名の協会にかの女たちは認められ、表彰され、陽の目を見ることになりました。かの女たちは勝負に勝ったのです。

(11) この幸運な結末が通則のものとは申しません。ベルナール・パリシイ(1510-1589。フランスの陶芸研究家。)もかれなりに美の新様式を発見していました。かれはそのために苦しみをなめたのですが、束の間とはいえ安心立命の感を味わうことができたのでした。宗教迫害でかれは(パリシイはプロテスタントでした)、終身刑として投獄され、結局は苦悩のうちに死んだのです。ですからこの場合は精神的な面では成功したのですが、物質的の面では逆だったわけです。

(12) わたしはあなたに成功の保証を与えることはできません。仕事にしろ、才能にしろ、偶然

に左右されるからです。ただ、あなたがどんな環境にあらうと、品位と威厳と勇気を保つことができれば、肝心かなめのところで一步も譲らなかつたならば、あなたは決して完敗を喫することはないでしょう。

(13) くりかえして申しませう。目的は《成功する》ことや、《つまらぬもの》(プルタルコス)を征服することではなくて、どんなときにもあなたの内面風景に光線束を投影する権利をもつこと、あなたの成果に誇りをもつか、すくなくとも顔を赤らめなくてすむだけの存在理由をそこにみいだすことなのです。晩年が栄光につつまれるということは気持のいいものです。晩年の衰弱にはこういった安心感をあたえる力が必要なのです。

(14) ところが、不幸にしてあなたの晩年が栄光につつまれたものでなかつたとして、気になさることはありません。ただし、あなたがみずからこう言えるという条件さえととのってれば、《わたしはどんなときにも、誠心誠意、もっとも正しく、もっとも賢明と信じた流儀で行動した。》目的は栄光につつまれた背徳を確保することではありません。《月桂冠を戴いた黒い、やせた背徳。》一日、一日から、小さな永遠をつくりだすことです。

(15) 目的は幸福になることでもあるのです。モンテルランは言っています、《生涯を通じて、わたしはふたつのルールを守ってすごしました。いつもしたいときにしたかったことをすること。いつも気乗りのしなかつたことは明日にまわすこと。》かれの生きかたはこのとおりであり、しかも偉大な生きかたでした。

(16) だが、モンテルランがしたいことをいつもすることのできたのも、かれは立派な作品を書こうとの意欲があつたからで、かれはそれをなしとげたのでした。芸術家には気乗りのしないことを明日にのぼす権利があります。政治、軍隊、経済活動の分野ではルールもおのずからかわってきます。《ときは遅滞をゆるさず、世界は待ってくれない》からです。

P55 ~ 61

2. もし 16 世紀まで、三巻に選択をしぼらなければならないとすると、わたしならホメロス、プルタルコス、モンテーニュのものということになるでしょう。アランは毎年ひとりの大詩人を再読する(わたしもそれに倣いました)、というルールをみずからに課していました。ヴィヨン(フランスの詩人。1431-1463 以後。「遺言詩集」)に一年、ロンサール(フランスの詩人。1524-1585。プレイヤードの指導者。「エレヌへのソネット」)に一年、デュ・ベレ(フランスの詩人。1522-1560。「フランス語の擁護と顕揚」)に一年、といったぐあいに。

P68

3. (1) では七人の著者にしぼった別荘用の書架をおすすめませう。七人とは、ホメロス、モンテーニュ、シェークスピア、バルザック、トルストイ、プルースト、アランです。あなたがこれらの作家を完全に消化し、その詳細な報告をわたしがきく日には、あなたは非常に教養の高

い人物となっておられることでしょう。だが、この文学的教養に科学的教養をあわせ身につけることが必要です。あなたの職業によっては、その必要をみとめないような場合においてもです。《幾何学者にあらざれば、ここに入るにあらず。》物理学者に、化学者に、生物学者にあらざれば、ここに入るにあらず、です。

(2) クロード・ベルナール(フランスの生物学者。1813-1878。自然主義文学に大きな影響をあたえた。)の『実験医学研究序説』は、現代世界を解く鍵のひとつです。人間が数理的臆説を発見したとき初めて、その臆説は事実を斟酌しなければならないことを理解したときにもう一度、人間にとってなにもかもが一変したのです。あらゆる形而下科学、人類科学の専門家の著作を読み、それを理解することをあなたに要求しているではありません。かれらの方法とかれらの研究への知識を新たにさせていただきたいのです。あなたが学者や、その学者たちの秘訣を知らないでいて、工場を、町を、ひいては国家を、どのようにして管理してゆけましょうか。

(3) 無知から、学者の仕事やその誇り、つまり科学的探求のなんたるかに目を閉じて、どのようにして現代世界が理解できましょうか。

(4) イヨネスコ(ウージェーヌ。1912- フランスの劇作家。ルーマニア生まれ。「無給の殺し屋」「罍」)はある日、テルスター衛星はただひとつ存在するだけで、あらゆる国へこの人工衛星から伝送されるくだらない映像より桁ちがいに重要である、と言いました。オルダス・ハックスリー(イギリスの小説家、批評家。1894-1963。「対位法」「ガザに盲いて」)は、教養人はシェークスピアの作品を知らなければならぬと信じているが、熱力学の第二法則(エネルギーの保存の法則(第一)と不可逆性の法則(第二))は知らなくてよいと信じているのはうなずけない、と、主張していました。

(5) 現代社会での科学の重要性が芸術、文学の終末を意味するとは、わたしもまったく考えていません。科学は人間に、外界に対する威力をあたえてくれます。この威力は日ましに大きくなってゆきます。文学は人間の内面の世界に秩序を立てる手助けとなるものです。この科学と文学のふたつの機能は必要欠くべからざるものです。感情のもつれから心のみだされることもある学者が、ときおり芸術のバルブもひらく余裕がなければ、研究に精神を集中するに足るゆとりなどどうして保てましょうか。

(6) アメリカで指折りの理科系の学校では(カリフォルニア工科大学とマサチューセッツ工科大学)、歴史・文学へあてられた部門をたえず拡大しています。微粒子のそれのような未知の世界には、潜在力の秘密がふくまれ、感覚のそれのような既知の世界には、均衡の秘密がそれぞれの個人のためにふくまれています。文学を熱愛する科学者に、科学に食指をうごかす文学者に、ぜひなってもらいたいものです。

<コメント>

フランスの思想家、アンドレ・モーロワの名著「青年と人生を語ろう」。目的をもって自己形成をするために、どのように読書をしたらよいかを具体的に示している。読むべき本を絞り込み、1年かけて1人の詩人を繰り返し読み返すなど参考になる。

— 2018年1月2日（火）林明夫—